第一回 納涼もんご祭り

〜寄って、見て、触ってmongo〜　企画書

　MongoDB-JP（MongoDB-JPユーザ会）およびNoSQLの利用促進に賛同する団体・個人によって共催する、MongoDB・NoSQLおよび関連技術をより広く知らしめることを目的としたイベントを企画する。

開催に関する情報（予定）

日時：2013年7月28日（日）

　　　午後12時〜午後18時

場所：東工大蔵前会館 1F

参加費：無料

イベントの形式：夜祭りをフィーチャーした展示場と講演形式による発表の場、および広報に関わる掲示などを織り交ぜた、入退場の自由な一般向けイベント。

企画担当：福崎　昭伸（[akki@centimani.biz](mailto:akki@centimani.biz)）

# はじめに

　最先端の世界は素人が主役の世界である。なぜなら、最先端であるが故に本当の意味での専門家は未だ存在しないからである。ほんの２０年前に普及しはじめた携帯電話は緊急連絡等が必要とされるビジネスマンや特殊な地位の人々のためのデバイスとして普及しはじめた。しかし、１０年も経つと児童・生徒や主婦、高齢者など“普通”の人々が利用者の大多数を占めるようになった。この時、従来の通信事業者ではない“素人”プレーヤーがこのデバイスの新しい使い方を開拓していった。昨今においてはスマートフォンという多機能なデバイスに携帯電話が置き換わることで、さらに広い領域に市場を拡大し、結果として様々な人々が“ネット”に繋がるようになった。それに伴って、一部の専門家のものであった“高度な情報共有の場”もより一般の人々の利用に供されることになり、情報を発する側に位置する人々も大半が“素人”となり非常に高い多様性を築くに至っている。

　NoSQLという分野もこの流れの中で一般化が恐るべき速度で進んできている。いわゆるSystem Integrationの世界でData BaseといったらRelational Data Baseが一般であり、そのデータへアクセスする手段のスタンダードはSQLという問合せ言語を用いる方法である。RDB+SQLという体系は非常に整えられており様々な分野における専門家達に愛用され、システム作りに使われているが、この分野に上述の様な背景によって“素人”が大量に入り始めているのである。従来ならばシステムの専門家集団がDBの専門家やアルゴリズムの専門家、UIの専門家などから形成され分業体制をしいて工程に基づいて設計・開発・構築していたが、今やソーシャルなゲームを思いついた一人の開発者によってきわめて短い期間で一気にBeta版公開までこぎ着けてしまうようなケースが現れ始めている。その中で従来の専門家的な多数の“段取り”を必ずしも必要とせず、高速に変化する多種多様なニーズに応えやすい簡単なツールとしての側面を持つNoSQLには一定の利用価値が認められるようになってきたのである。

　キーワードは速さと柔軟さである。現代において速さは正確さ以上に重要な要素である。ものの製造コストよりも認知されるコストのほうが相対的に高くなり、認知されるためには情報伝搬の波に乗れなくてはならず、波の予兆を感じてから認知へ至るのに使える時間は非常に限られているからである。その上で正確性を向上させ、変化への対応をするためには柔軟さが重要になってくる。この速さと柔軟さを兼ね備えたツールとして我々はNoSQLを捉えている。そして、このNoSQLの普及によって我々の豊かな社会にさらなる豊かさを多数の偉大なる“素人”たちがもたらしてくれる事を信じている。

企画担当者　福崎　昭伸

# MongoDB-JPについて

　本企画はMongoDB-JPの発案により企画されます。MongoDB-JPについて詳しくは（<http://crumb.jp/mongo/main>）をご覧下さい。以下にMongoDB-JPの目的と活動内容を引用します。

目的+

MongoDBユーザによるMongoDBユーザの為の会です。

MongoDBは2013年現在、世界で最も注目を集めているNoSQLです。

これを日本で普及させると共に、その日本での地位を確固たるものにする事を目的としています。

活動内容+

1. MongoDBを普及するための各種イベント（他OSSとの交流、独自セミナー、等）の開催
2. MongoDBに関する技術情報の日本語化作業（ドキュメント、Webinar、Webサイト、等）
3. MongoDB技術者間の交流の促進（ハッカソン、トレーニング、勉強会、等）
4. 開発元である10gen社とはマーケティング面での協業/連携（MongoDB Tokyoの開催、パートナー企業の支援）

# イベントの主旨

　MongoDBならびにNoSQLをより広い範囲の人々に知ってもらい、興味をもってもらい、使ってもらうために、定期的に開催しているエンジニアによる勉強会とは趣旨を変え、より一般の人々が参加しやすくします。具体的には夏休み期間に開催されるため、日本人になじみの深い「夏祭り」をフィーチャーし、「何か面白いものがあるかな？」と気軽に立ち寄れるような雰囲気を作り来場の敷居を下げます。また一度来場された方々のために技術的な深掘りではなく、実際的な体感が得られるような分かりやすいものを中心とし、来場者それぞれの潜在的な利用ニーズを引き起こす様なコンテンツを提供します。その上でMongoDBに詳しい人もそうでない人も、相互に知り合えて交流ができるようにすることでMongoDBならびにNoSQLとその関連技術の利用者の裾野を拡げます。

　上記のような目的を実現するため、会場は夏祭り風の演出をこらし、開催側関係者や事前登録をした一般参加者にはお祭り風のはっぴを来てもらい、夏祭りのなごんだ空気を味わい、各コンテンツの演出では出展者と来場者とが有意義なコミュニケーションをとれるよう、屋台風の展示方法で短い距離での展示を実現します。

　お祭りはその地域に居合わせた人であればだれでも参加することができます。本イベントもそのような形で実現したいため、参加費はあらゆる人々に対して無料と設定します。開催地の近所の方々だけでなく遠方からも来て頂くように広報活動もし、魅力的な内容になるためコンテンツの制作・演出には十二分な準備を行います。参加費は無料ですが開催には若干のコストがかかりますから、本イベントではスポンサーを募ります。詳しくは後述しますが、一緒にイベントの開催をしていただく共催の形と、なんらかの形で協力していただく協賛の形とを準備いたします。

　本イベントの成功にはあらゆる参加者の皆様のご協力が何よりも必要です。楽しい祭りとしたいので、皆様のご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

# ターゲット

# イベントの構成

# 出展物（予定）

# 効果目標

# 経費見積もり

# 共催について

# 協賛について

# 出展参加について

# 一般参加について

# オンライン参加について

# 取材について

# さいごに